

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401897		
法人名	有限会社 風の森		
事業所名	グループホーム 風の森		
所在地	長崎県南島原市西有家町長野762番地		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雲仙の山々や有明海を望み、静かな場所に立地している。
果物の木や草花等季節を感じる事が出来る多くの草木を施設周辺に植栽しており、居心地の良い環境の中で日々生活を送ることが出来る。
また、入居者がご自宅の延長として安心して生活して頂けるよう、家庭的な雰囲気づくりを心掛け、それぞれ自由にご自分のやりたい事の出来る環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは島原半島南側の自然豊かな場所に位置しており、共用空間や各居室の窓からは敷地内に植えられた柿・枇杷・栗の木などを見ることができ、季節の移ろいを感じることが出来る。ホームでは半年に一度「チャレンジシート」にて職員の支援に対する目標を設定し、施設長による職員との個人面談で目標達成度の確認や見直しを行うほか、そこで聞き取った意見を運営に反映するよう努めている。職員は日常の会話を通して入居者との信頼関係を築くとともに、衣替えの時期には自宅へ外出したり墓参りに付き添ったりするなど、できるだけ入居者の希望に沿えるよう取り組んでいる。また、お盆や正月に家族と外出・外泊する際にはホームの福祉車両を貸し出し入居者の馴染みの関係が途切れないよう配慮するなど、入居者本位の介護実践に取り組む職員の姿に今後も期待が持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との触れ合いを大切に思い、それぞれの入所者が過ごして来られた環境を大切にして、ゆっくりと穏やかに暮らして頂ける事を理念に掲げている。各職員は、その理念を踏まえて日々の支援に努めている。	ホームでは半年に1回職員一人ひとりの目標を「チャレンジシート」に書き出し、施設長による個人面談にて目標達成度の確認や見直しを行っている。職員は会話を通して入居者との信頼関係を築くとともに、入居者の人格を尊重した入居者本位の介護実践に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	10月の地域の秋祭りには、施設外庭にお神輿に立ち寄り頂き、入居者もお参りされ、神主よりお祓いをして頂いている。地域の保育園児も来所し、施設内フロアにて子ども神輿やその他の催し物を披露して頂き、子供とふれあい楽しく過ごされています。また、周辺の農家の方より野菜や果物を沢山頂き入居者へ提供している。	ホームは自治会に加入しており、回覧板等を通じて地域の情報を得ている。地域の秋祭りではホームへ御神輿が立ち寄るほか、近くの保育園児によるこども神輿来訪の際には歌や肩たたき、園児づくりのペンダントのプレゼントがあるなど入居者の楽しみとなっている。また、彼岸の前には老人会の方が訪れ入居者と会話を楽しむほか、ホームのことを知ってもらおう機会にするなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校生の福祉体験の場としての利用や、地域周辺の方々の施設見学、また、認知症の方への対応に苦慮されている方々への相談等にも応じる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当・地域代表・ご家族・職員が参加し会議を行っている。入所者への日々の取組状況や現状報告、職員の研修への参加状況等を報告し、参加者よりご意見を頂き、今後のサービス向上に努めている。	運営推進会議では入居者の状況や行事などについて報告するとともに、参加者からも意見や要望を伺い運営に活かしている。ホームでは会議開催日をホーム玄関の掲示やホーム便りにて知らせる工夫を行い、会議への家族の参加を促している。	ホームでは家族に向けて会議開催日を知らせる取り組みを行っているものの、参加に至っていない現状にある。今後、例えば面会の際に会議開催について家族へ声を掛けたり参加者が固定化しないよう交代で出席してもらったりするなど、更なる会議活性化に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護等の公的扶助を受けられている入居者の担当者へ必要な情報提供を行ったり、助言を頂きながら協力体制を取っている。	運営推進会議に市職員の出席があることから、ホームに関する制度について質問したり助言を得たりしている。生活保護対象者については当該部署担当者と日頃から連携を図り、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員にはホームの空室状況を知らせるなど、情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修へ参加し、そこで学んだ事を全職員で共有できる様、勉強会を設けている。見守りを重視する事により、行動制限を行う事が無いよう努めている。	ホームでは運営推進会議後に身体拘束適正化検討委員会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。職員会議の際にはスピーチロック(言葉による拘束)についての周知を図っている。外部研修に参加した職員は報告書を作成し、参加していない職員にも内容の周知を行っているが、職員によっては身体拘束の三原則などの認識について曖昧な部分が窺われたため、職員間での共有が望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に参加し、身体や言葉による虐待等を見逃すことの無いよう、日々入居者の心身状態に心配りを行っている。また、全職員に対し、虐待する事の無いよう周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、制度の理解に努めている。また、制度を利用されている入居者の担当者とも情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には重要事項等を説明し了承を得た上で契約している。不安や疑問点は随時相談して下さるようお願いしている。また、制度改正等がある場合は再度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日頃の会話や傾聴に努め、要望がくみ取れるようにしている。ご家族には面会時や電話等にて状態報告時等に要望をお聞きしている。また、玄関には苦情箱を設け意見・要望・苦情を投函頂けるようにしている。要望・意見については可能な限り運営に反映させている。	職員は面会や電話連絡の際に家族からの意見や要望を聞き取り、職員間で話し合い運営に反映できるよう取り組んでいる。ホームでは2か月に一度色彩豊かな写真や文字で彩られたホーム便りを発行し、担当職員からの一言を添えて入居者の状況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から提案等が有る場合は直接話し合える環境を作っており、毎月1回の全体会議で職員の意見・要望提案を聞く場を設け、運営に反映させている。	施設長は半年に一度実施している「チャレンジシート」での自己評価及び個人面談により、職員一人ひとりの目標達成度の確認や支援に関する意見を聞き取り、運営に反映している。ホームでは有給休暇や各種研修・資格取得に関する希望休も取りやすく、職員にとって働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員はコミュニケーションを図り、何でも話せる関係である。また、半年に1度、目標に対しての自己評価や個人面談を行っており職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修実施や外部研修への参加を呼び掛け、その後、参加した職員が全体会議で研修内容を報告する機会を設け、参加できなかった職員も情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や交流会に参加し、ネットワーク作りに努めている。また、ホーム長会議に出席し情報交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の安心を確保する為に、まず、職員の表情・態度・雰囲気に関心している。誰もが新しい環境に不安であるという事を念頭におき、職員全体で情報を共有している。新しい入居者には、話しやすい雰囲気や話題を投げかけるようにして信頼関係を築き、入居者が孤立しないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の要望等をお聞きし、入居後は面会時や電話等で現状報告や情報交換を行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決定した時点でアセスメントを作成し、本人・家族の要望を踏まえ、どのような支援が必要か見極めケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	精神状態や身体状態を勘案し、日々の関わりの中で苦言を聴いたり、テーブル拭き・洗濯物たたみ等入居者の体調に合わせて軽作業と一緒に取り組むことで、信頼関係を築きながら日々穏やかな雰囲気与生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や体調不良時は電話で状態報告を行っている。 不安な事の相談や意見を交換したりして、ご家族と一緒に入居者を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで馴染みの場所や散歩等外出の機会を設けている。また、近所の人と出会った時は、懐かしく喜ばれている。自宅への外出・外泊等の支援に努めている。外出が困難な方は、ご家族等に訪問して頂いたり、電話でお話されています。	ホームでは衣替えの時期には自宅へ外出したり、墓参りに付き添ったりするなどの支援を行っている。お盆や正月に家族と外出・外泊する際にはホームの福祉車両を貸し出して外出がしやすくなるよう支援するなど、入居者の馴染みの関係が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの能力や心身状態、性格等を見極め、職員が繋ぎ役をし、お互いを尊重し支え合える関わりを大切にすることにより、入居者同士の良好な関係が築かれている。また、テーブル席やソファ等の位置に配慮し、コミュニケーションが取れる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて自宅訪問や電話での相談を行い、状況に応じて本人同意の上、介護支援専門員やサービス提供者への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中や、直接要望をお聞きすることで、入居者の思いや意向を把握するようにしている。本人の言葉を大切に、その人らしさとは何かを考えケアに繋げている。また、困難な場合にはご家族に相談し情報提供をお願いしている。	職員は入居者が安心して生活できるよう日頃から声掛けし、本人の希望を聞き取ることで思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方については家族から情報を聞き取り、支援に活かすよう努めている。音楽の好きな方にはリビングに設置したキーボードで演奏していただくなど、入居者一人ひとりに応じた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者及びご家族にこれまでの生活環境等をお尋ねしフェイスシートを作成しており、これまでの生活に近い環境で過ごして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や排泄等を記入するシートを作成しており、1日のリズムや会話の中での心身状態の観察を行いながら、状態の変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々に担当職員を決めて状態把握等に努めている。また、入居者・ご家族の意向を重視し、全職員で話し合いながら3月毎にプランを見直し、状態に添った新しいプランを作成している。	ホームでは入居者・家族の希望を聞き取り、入居者の担当職員が作成した原案をもとに月1回のケア会議で内容を検討し、他の職員の意見も取り入れながらケアマネジャーが介護計画を作成している。計画の内容は3ヶ月毎に見直しを行い、入居者の状態に変化があった場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気付き・変化等をケアプランチェック表に記録し情報共有を行っている。また、毎月の会議で検討し、必要があればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院・通院・外出・外泊等 入居者やご家族の希望に添えるよう柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や地元保育園等との触れ合いを大切にしている。 消防署、地元消防団、地域の方の協力を得て、災害時の避難方法など指導頂き、安心して安全な暮らしが出来る様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望する病院との連携を図り、気づきや変化があればその都度主治医、ご家族に報告を行っている。また、状態の変化等があれば受診できる体制を取っている。	ホーム協力医療機関への受診については職員付き添いや往診にて対応しており、他科への受診については家族対応を基本としている。尚、歯科については訪問診療にて対応している。受診の際には入居者の個人記録を持参するほか、入居者の状態に変化があればすぐに主治医へ連絡し、受診などの指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	菜の花クリニックと医療連携体制を取っており、看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。また、入居者の体調に変化があった時は、施設内の看護師や主治医に相談し、受診等に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は付き添い、情報提供を行い安心して治療できる様に努めている。早期に退院して頂ける様に入院中も病院関係者と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成しており、入居者・ご家族の意向を尊重し、主治医や看護師と相談し、可能な限り支援出来るようチーム全体で取り組む体制を整えている。	ホームでは重度化・看取りに関する指針を整備し、入居時及び重度化した際に家族へ説明し同意を得ている。重度化した場合には主治医・看護師・家族・職員で相談し、今後の方針を共有しながら看取りを行っている。来年2月には島原地域広域市町村圏組合主催の看取り研修会に参加する予定であり、職員の知識向上を図るとともに、今後も看取りを行う意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時や事故発生時に備え、職員の連絡網を作成し、月1回の会議で課題や問題点について話し合いを行っている。応急手当等については、マニュアルを作成し実践している。また、ヒヤリハットの時点で未然に事故を防ぐ努力を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎年2回消防署の指導を受けながら、担当を決めてスタッフ全員参加による消防訓練を行っている。 また、地域の方々も協力してもらえるよう体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐため、建物・消火設備器具・消防用設備点検等を月1回実施している。	年2回、日中・夜間・地震を想定した消防署立ち合いでの火災避難訓練を実施している。訓練では入居者の体調を考慮しながら参加してもらうほか、地域の方にも参加を呼び掛け、近隣住民や地元消防団の参加がある。職員は水消火器を使用した訓練を入職時もしくは1年置きに行い、初期消火の技法も身に付けている。	ホームでは防災マニュアルを作成し、職員の役割分担についても出勤体制によって決めているとのことだったが、職員の認識に曖昧な部分が見受けられた。今後、役割分担の再確認及び防災マニュアルの職員への周知が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、言葉掛けにも注意しプライバシーを損ねないようにしている。 プライバシーの確保の為、個人情報等には特に注意している。	ホームでは入居者への支援の場面で職員の不適切な言葉掛けがあった場合にはその都度職員間で注意し合い、「チャレンジシート」で目標設定を行うなど意識付けを図っている。職員は入居者を人生の先輩として敬い、尊厳を持った言葉掛けや対応を心掛けている。また、尿取りパットやオムツなどを収納している部分にはカーテンで目隠しするなどし、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の入居者の会話や表情から思いを把握し、入居者一人ひとりがいつでも自分の思いが伝えられるような関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活スタイルを変えることなく、気持ちよく過ごして頂けるよう入居者一人ひとりに合った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴の際は、入居者の着たい服などを尋ねながら希望の服を着て頂いている。 また、定期的に理容師に訪問して頂き、希望の髪型に切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーの有る方には代替食を用意し提供している。それぞれ個々のペースでゆっくり摂取頂いている。早出しも兼ねて、なるべく皆さんと一緒に食べ終えるようにしている。テーブル拭き等のお手伝いもして頂いている。	食事は近隣住民からいただく食材などを用いて調理担当職員が手づくりし、入居者の嚥下状態や嗜好に合わせた形態で提供している。誕生会や敬老会、創立記念日などには職員による催しや行事食を準備するなど、入居者に楽しんでもらえるよう取り組んでいる。入居者・職員とで談笑しながら食事を楽しむ姿から家庭的な雰囲気が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・キザミ食・ミキサー食・トロミ剤等入居者に合った形態で提供している。また、食事・水分の摂取量も記録しており、摂取量が低下気味の方には、高カロリーゼリー等で栄養補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて出来る方には、食後声かけし行って頂いている。介助が必要な方には、介助にて口腔ケアを行い、清潔に保って頂ける努めている。また、夜間は義歯を預り、洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら声かけし、トイレでの排泄が出来るように支援している。失敗された時も他の方に気づかれぬ様な対応を心掛けている。	職員は排泄チェック表をもとに入居者の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。排泄を失敗した場合も周りの方に気付かれぬよう声掛け・誘導し、居室にて陰部清拭を行うなど本人の羞恥心や衛生面に留意した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事に注意し、乳製品・野菜を多く取り入れ、バランスの良い食事を心掛けている。毎日排便の確認を行い、必要に応じて主治医へ相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の入浴のスタイルを大切に、ゆっくり楽しく入浴して頂けるよう、見守り・介助の支援を行っている。	ホームでは週2回午前中に入浴支援を行っており、自分でできることはできるだけ行ってもらうことでその方の残存機能を活かした支援を心掛けている。重度の方については室温を管理しながらシャワー浴及び足浴で対応しており、入浴後には処方された保湿剤などを塗布し、スキンケアにも留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や生活習慣に合わせ、居室やフロア、ソファで休息して頂けるよう支援している。不眠の方に対しては、主治医と相談ながら気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方内容を把握し、常に確認できるように薬管理表に記録している。また、一人ひとりの服薬能力に応じて見守り、介助を行い服用後の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き等出来る範囲で手伝って頂き、お礼・感謝の言葉をかけている。また、レクリエーションや風船バレー・ドライブなどを通じて気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、買い物に出かけたり、施設周辺への散歩や季節を感じてもらう為にドライブに行くなど外出支援をしている。	職員は天気の良い日にホーム庭や近所を散歩するなど、入居者の気分転換を図っている。花見や紅葉狩りなど時季に応じたドライブの際にはあらかじめトイレの場所などを確認し、外出時の排泄を心配する方に配慮しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に応じてお金を所持して頂いたり、金銭管理が出来ない入居者は、ご家族からお小遣いを預って、日用品やお菓子など購入の訴えがあった場合すぐに対応できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から要望があった場合は、電話の仲介や手紙・ハガキ等の代筆支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションや行事時の写真を掲示したり、季節を感じて頂ける品や花等を飾り、入居者が心地良く過ごせるよう工夫しています。	ホーム玄関先には季節の花が彩られ、窓からも柿や枇杷、栗の木などを見ることができ、季節の移ろいを感じることができる。リビングではテレビ鑑賞する方やソファで寛ぐ方など思いおもいに過ごす姿が窺える。また、手づくりの運動器具により、入居者の体力が維持できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子を複数設置し、一人で過ごしたり、気の合った者同士でテレビを観たり、畳の上で寝転んだり思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた愛着のある物や好みの日用品を持って来て頂いたり、ご家族の写真を飾る等、居心地良く安心して過ごせるよう工夫しています。	居室にはトイレ・洗面台・クローゼットが備え付けであり、馴染みの品など持ち込む物については入居者本人・家族・職員で相談し、持ち込んでいる。室内には家族の写真や仏壇など、入居者それぞれに応じた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差が無く、車椅子で自由に行き来でき、廊下には手すり設置し歩行訓練などで途中休憩頂けるよう長椅子を置き、安心して自立した生活が送れるよう工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との触れ合いを大切に思い、それぞれの入所者が過ごして来られた環境を大切にして、ゆっくりと穏やかに暮らして頂ける事を理念に掲げている。各職員は、その理念を踏まえて日々の支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月の地域の秋祭りには、施設外庭にお神輿に立ち寄り頂き、入居者もお参りされ、神主よりお祓いをして頂いている。地域の保育園児も来所し、施設内フロアにて子ども神輿やその他の催し物を披露して頂き、子供とふれあい楽しく過ごされています。また、周辺の農家の方より野菜や果物を沢山頂き入居者へ提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校生の福祉体験の場としての利用や、地域周辺の方々への施設見学、また、認知症の方への対応に苦慮されている方々への相談等にも応じる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当・地域代表・ご家族・職員が参加し会議を行っている。入所者への日々の取組状況や現状報告、職員の研修への参加状況等を報告し、参加者よりご意見を頂き、今後のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護等の公的扶助を受けられている入居者の担当者へ必要な情報提供を行ったり、助言を頂きながら協力体制を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修へ参加し、そこで学んだ事を全職員共有できる様、勉強会を設けている。見守りを重視する事により、行動制限を行う事が無いよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に参加し、身体や言葉による虐待等を見逃すことの無いよう、日々入居者の心身状態に心配りを行っている。また、全職員に対し、虐待する事の無いよう周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加し、制度の理解に努めている。また、制度を利用されている入居者の担当者とも情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には重要事項等を説明し了承を得た上で契約している。不安や疑問点は随時相談して下さるようお願いしている。また、制度改正等がある場合は再度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日頃の会話や傾聴に努め、要望がくみ取れるようにしている。ご家族には面会時や電話等にて状態報告時等に要望をお聞きしている。また、玄関には苦情箱を設け意見・要望・苦情を投函頂けるようにしている。要望・意見については可能な限り運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から提案等が有る場合は直接話し合える環境を作っており、毎月1回の全体会議で職員の意見・要望提案を聞く場を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員はコミュニケーションを図り、何でも話せる関係である。また、半年に1度、目標に対しての自己評価や個人面談を行っており職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修実施や外部研修への参加を呼び掛け、その後、参加した職員が全体会議で研修内容を報告する機会を設け、参加できなかった職員も情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や交流会に参加し、ネットワーク作りに努めている。また、ホーム長会議に出席し情報交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の安心を確保する為に、まず、職員の表情・態度・雰囲気に関心している。誰もが新しい環境に不安であるという事を念頭におき、職員全体で情報を共有している。新しい入居者には、話しやすい雰囲気や話題を投げかけるようにして信頼関係を築き、入居者が孤立しないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の要望等をお聞きし、入居後は面会時や電話等で現状報告や情報交換を行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決定した時点でアセスメントを作成し、本人・家族の要望を踏まえ、どのような支援が必要か見極めケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	精神状態や身体状態を勘案し、日々の関わりの中で苦言を聴いたり、テーブル拭き・洗濯物たたみ等入居者の体調に合わせて軽作業と一緒に取り組むことで、信頼関係を築きながら日々穏やかな雰囲気で生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や体調不良時は電話で状態報告を行っている。 不安な事の相談や意見を交換したりして、ご家族と一緒に入居者を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで馴染みの場所や散歩等外出の機会を設けている。また、近所の人と出会った時は、懐かしく喜ばれている。自宅への外出・外泊等の支援に努めている。外出が困難な方は、ご家族等に訪問して頂いたり、電話でお話されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの能力や心身状態、性格等を見極め、職員が繋ぎ役をし、お互いを尊重し支え合える関わりを大切にすることにより、入居者同士の良好な関係が築かれている。また、テーブル席やソファ等の位置に配慮し、コミュニケーションが取れる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて自宅訪問や電話での相談を行い、状況に応じて本人同意の上、介護支援専門員やサービス提供者への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中や、直接要望をお聞きすることで、入居者の思いや意向を把握するようにしている。本人の言葉を大切に、その人らしさとは何かを考えケアに繋げている。また、困難な場合にはご家族に相談し情報提供をお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者及びご家族にこれまでの生活環境等をお尋ねしフェイスシートを作成しており、これまでの生活に近い環境で過ごして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や排泄等を記入するシートを作成しており、1日のリズムや会話の中での心身状態の観察を行いながら、状態の変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々に担当職員を決めて状態把握等に努めている。また、入居者・ご家族の意向を重視し、全職員で話し合いながら3月毎にプランを見直し、状態に添った新しいプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気付き・変化等をケアプランチェック表に記録し情報共有を行っている。また、毎月の会議で検討し、必要があればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院・通院・外出・外泊等 入居者やご家族の希望に添えるよう柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や地元保育園等との触れ合いを大切にしている。 消防署、地元消防団、地域の方の協力を得て、災害時の避難方法など指導頂き、安心して安全な暮らしが出来る様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望する病院との連携を図り、気づきや変化があればその都度主治医、ご家族に報告を行っている。また、状態の変化等があれば受診できる体制を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	菜の花クリニックと医療連携体制を取っており、看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。また、入居者の体調に変化があった時は、施設内の看護師や主治医に相談し、受診等に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は付き添い、情報提供を行い安心して治療できる様に努めている。早期に退院して頂ける様に入院中も病院関係者と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成しており、入居者・ご家族の意向を尊重し、主治医や看護師と相談し、可能な限り支援出来るようチーム全体で取り組む体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時や事故発生時に備え、職員の連絡網を作成し、月1回の会議で課題や問題点について話し合いを行っている。応急手当等については、マニュアルを作成し実践している。また、ヒヤリハットの時点で未然に事故を防ぐ努力を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎年2回消防署の指導を受けながら、担当を決めてスタッフ全員参加による消防訓練を行っている。 また、地域の方たちも協力してもらえるよう体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐため、建物・消火設備器具・消防用設備点検等を月1回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、言葉掛けにも注意しプライバシーを損ねないようにしている。プライバシーの確保の為、個人情報等には特に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の入居者の会話や表情から思いを把握し、入居者一人ひとりがいつでも自分の思いが伝えられるような関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活スタイルを変えることなく、気持ちよく過ごして頂けるよう入居者一人ひとりに合った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴の際は、入居者の着たい服などを尋ねながら希望の服を着て頂いている。また、定期的に理容師に訪問して頂き、希望の髪型に切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーの有る方には代替食を用意し提供している。それぞれ個々のペースでゆっくり摂取頂いている。早出しも兼ねて、なるべく皆さんと一緒に食べ終えるようにしている。テーブル拭き等のお手伝いもして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・キザミ食・ミキサー食・トロミ剤等入居者に合った形態で提供している。また、食事・水分の摂取量も記録しており、摂取量が低下気味の方には、高カロリーゼリー等で栄養補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて出来る方には、食後声かけし行って頂いている。介助が必要な方には、介助にて口腔ケアを行い、清潔に保って頂ける努めている。また、夜間は義歯を預り、洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら声かけし、トイレでの排泄が出来るように支援している。失敗された時も他の方に気づかれない様な対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事に注意し、乳製品・野菜を多く取り入れ、バランスの良い食事を心掛けている。毎日排便の確認を行い、必要に応じて主治医へ相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の入浴のスタイルを大切に、ゆっくり楽しく入浴して頂けるよう、見守り・介助の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や生活習慣に合わせ、居室やフロア、ソファで休息して頂けるよう支援している。不眠の方に対しては、主治医と相談ながら気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方内容を把握し、常に確認できるように薬管理表に記録している。また、一人ひとりの服薬能力に応じて見守り、介助を行い服用後の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き等出来る範囲で手伝って頂き、お礼・感謝の言葉をかけている。また、レクリエーションや風船バレー・ドライブなどを通じて気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、買い物に出かけたり、施設周辺への散歩や季節を感じてもらう為にドライブに行くなど外出支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に応じてお金を所持して頂いたり、金銭管理が出来ない入居者は、ご家族からお小遣いを預って、日用品やお菓子など購入の訴えがあった場合すぐに対応できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から要望があった場合は、電話の仲介や手紙・ハガキ等の代筆支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクレーションや行事時の写真を掲示したり、季節を感じて頂ける品や花等を飾り、入居者が心地良く過ごせるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子を複数設置し、一人で過ごしたり、気の合った者同士でテレビを観たり、畳の上で寝転んだり思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた愛着のある物や好みの日用品を持って来て頂いたり、ご家族の写真を飾る等、居心地良く安心して過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差が無く、車椅子で自由に行き来でき、廊下には手すり設置し歩行訓練などで途中休憩頂けるよう長椅子を置き、安心して自立した生活が送れるよう工夫しています。		